平成 28 年 10 月 4 日

一般社団法人日本癌治療学会　　理事長　北川 雄光　先生
第５４回日本癌治療学会学術集会　会長　　中野 隆史　先生

「第 54 回日本癌治療学会学術集会　市民公開講座について」

いつも私たちがん患者のための研究を進めていただき、また癌治療学会学術集会において、がん患者や家族が参加するプログラムを設けていただきありがとうございます。
日本癌治療学会および日本癌治療学会学術集会は、がん患者や家族が学術集会に参加しＰＡＬセミナーにおいて素晴らしい先生方からの講義や意見交換を通じて「質の高い臨床研究の大切さ」「質の高い臨床研究の理解」を深めることにどの学会よりも早く取り組んでこられた学会だと思っており感謝しています。

私たち卵巣がん患者は治療に苦慮する患者も多いため、病気と向き合う不安から薬事承認をされていないなど有効性・安全性が評価されていない医療技術を自費で提供する「インチキ」まがいの医療機関にいってしまう患者さんが少なくありませんでした。
そういった背景から私たち「卵巣がん体験者の会スマイリー」は患者に対して科学的根拠のある治療の重要性、またインチキにすがるのではなく、臨床試験や治験、先進医療、拡大治験、患者申出療養など「出口を見据えた、また患者の予期せぬ副作用等にきちんと対応できる研究に被験者として参加する」選択肢の理解を深める活動をしてきました。

今回、市民公開講座として提供される「がん撲滅サミット２０１６」の関係者や当日壇上に上がるパネリスト等のなかには、長年にわたり有効性安全性が確かではない治療法を「身体にやさしい」とか「画期的な治療法」と謳い自費診療として患者に行なってきた医療機関の医師がいます。
こうした医師を「トップガン」などとして「公開セカンドオピニオン」などするようなシンポジウムを本当に日本癌治療学会が市民に対して提供してよいのでしょうか？
日本癌治療学会はヘルシンキ宣言やＧＣＰ等を遵守して、倫理委員会を通過して研究を行なった、また厳しい査読や評価を通過した「質の高い研究」「将来の患者さんを救う研究」を発表する場であるのに、医療知識がない患者や家族を惑わせるようなシンポジウムを提供することは科学的根拠の大切さを理解し日本で質の高い臨床研究が行なわれるよう応援してきた患者や家族、もちろん多くの医療者の心を折り信頼を失うことになるのではないでしょうか？
開催まで時間は限られていますがいまいちどお考え直しいただけることを心から願います。

以上

卵巣がん体験者の会スマイリー　代表　片木美穂
k34kjp@gmail.com
電話 080-7038-9750　FAX03-6680-8387